

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 62号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2012. 12. 16

編集 芳村恵子

アドバイザー活動訪問

清水 成眞さんの

「生と性のはなし」

ある高校での性教育講演会に同席し、聴講させて頂きました。梅雨真っ只中にも拘わらず、しかも猛暑日という日でした。

まず、いつもの満面の笑顔で、「私は坊主です。坊主はお葬式をする仕事というイメージがありますが、そのほとんどの仕事は、皆がいかにか幸せに暮らしていけるかという事のヒントを与える仕事です。」という言葉から始まりました。

そして、生い立ちや坊主になった経緯、その間に身につけた人生観を話してくださいました。

次に「私達は、半強制的にこの世に生まれてきました。その時のいのちというプレゼントを貰いました。」と。その『いのち』を宿命・運命・使命という言葉と共に、限られた人生という時間をどのように遣っていったらいいか考えるよう語りかけられました。

「人間は、誰もが悪気はなくても、『自分さえ良ければいい』という思いを持っています。しかし、それを気づいている人と、気づいていない人では、『良い心』と『悪い心』という心の働きが変わってきます。」と。

心という漠然としたものに対して、自分自身を真直ぐ見詰める最も身近な、そして素直に考えられる言葉に思えました。

そして、「相手の身になることの大切さ」を、ある母親の生き様を通してお話された時、「人生で一番尊い仕事は子育てである。」という言葉がありました。昨今、幼児虐待のニュースも多く、子育てのイメージを持たないままで妊娠・出産している若者が問題視されるようになっていきます。

事細かく育児を説く以上に、高校生にとって、育ててもらった子どもとして、またそう遠くない将来の育てる立場になる者としても、

これらの言葉は胸に響いたのではないだろうかと感じました。

『自分さえ良ければいい』という心がある事を自覚すると、そこに感謝という心が生まれる。当たり前なのがどんなに幸せであるかに気づいて生きていくと、腹も立たなくなるだけでなく、人を許せる人間になる」と。

そして、最後に「つきっぱなしの人生」になるための、魔法の言葉を教えて頂きました。それは、「ありがとう」と「感謝しています。」でした。

大きな扇風機があちこちから風を送ってくれているとはいえ、猛暑日の体育館は、聴く生徒にとっても長く感じる時間だったでしょうが、真剣に聴いていました。

清水さん自身の言葉と笑顔だけで、スライドや物といった媒体は何もないのに、生徒さん達の視線をしっかりと集めて話される姿に、生きることを伝える凄さを感じました。



聴講生の一人として 芳村 恵子

*通信発行が遅れて、暑い日の思い出を、雪の舞う中でお話することをお詫び申し上げます。

第2回研修会

平成24年12月8日(土)

はわい温泉『翠泉』

出席者 山本会長 伊藤顧問 清水 西浦
菊澤 新川 西上 松原 芳村

会長挨拶より(一部)

- 1 今後の、鳥取県青少年育成アドバイザーの育成をどのようにするかを考える必要がある。

<他県での予定>

①島根県青少年育成アドバイザー養成講座
H25年1月19・20日 島根県立青少年の家

②全日本アド連主催

青少年育成アドバイザー養成講習会
H25年2月15・16・17日 愛知県青年会館

③第17回全日本アド連総会研究集会
H25年6月23・24日

札幌市札幌サンプラザ

④第19回青少年育成アドバイザー研究集会
H25年8月31日～9月1日

香川県オークラホテル丸亀

- 2 子育て支援法の対策を考え直す必要がある。

現在行なわれている、病気の子(発達障害・引きこもり・不登校など)に対する対症療法的な支援も大切だが、本来の病気にならない健康な子どもをどう育てるかという視点も考えなければならない。



- 3 会員個々の活動だけでなく、当アドバイザー全体としての活動を考えると共に、もっとPRしてアドバイザーを知ってもらうようにしなければならない。

—有害図書を考察する—

講師 清水成真氏

- * 有害図書とは
性や暴力に関して露骨もしくは興味本位の取り上げ方をし、青少年の人格形成に有害である可能性があるとして政府や地方自治体等によって指定される出版物。
(ゲームソフト・CD・DVDも含む)

- * 概要
指定を受けたら、書店では包装(多くはビニールシュリンクパック)した上で成人専用コーナーに陳列し、青少年(18歳未満の者)に対しては売ってはならないことになっている。なお東京都の条例では「不健全図書」という名称を用いている。

- * 有害図書規制の進展
1950年「チャタレイ夫人の恋人」をわいせつ文書として押収されたことから始まった。

1955年には「悪書追放運動」が起こり、「日本子どもを守る会」「母の会連合」「PTA」によるその運動は、手塚治虫の『鉄腕アトム』を含む漫画を校庭に集めて焚書するといった「魔女狩り」が行なわれた。

その後も、「表現の自由」と「青少年保護育成」との見解の相違によるぶつかり合いが続いた。その間に、1989年連続幼女誘拐殺人事件が発生、宮崎勉が逮捕され、大量のアダルトビデオ(後にホラービデオやロリコンビデオだと分かったが)を所持していたという報道がなされ、メディア効果論による悪影響が叫ばれた。

また、性や暴力だけでなく、差別の問題も上がり、特に日本人の家族3人の発案から発足した「黒人差別をなくす会」で、黒人差別表現をしていると思った(場合によっては人種差別全般も)キャラクター・漫

裏面に続く

画・アニメーション・出版社・企業などに対して抗議文をおくり、絵本の絶版や表現の修正をさせた。

これらの活動によって、漫画などにおける「顔が真っ黒で唇が分厚い」という黒人表現がタブー化され、抗議を恐れる出版社・作者の自主規制が行き過ぎて作品に黒人そのものを登場させることができないようになり、結果的に「黒人差別をなくす会」の行動によって、商業的表現活動の場において、黒人の存在そのものの自主規制を誘発することになっている。

その他、日本だけでなく海外の状況も教えて頂いた。

今日の研修会で、青少年を取り巻く身近な問題である「有害図書」やメディアの影響に対して知らないことが多く改め、改めて真実を知ることの大切さがわかった。

そのすべての発信元は、本来子ども達を育てる大人だと言っても過言ではない。勿論表現の自由もあり、線引きも難しく、多くの規制をかけても悪影響を取り除けないのが現状である。

ならば一方で、子ども達に多くの情報から、善悪を見極める眼や心を育てていく学習をしていく必要があると考える。

会長の話にもあったように、「心も身体も健康な子どもを育てる」ように、歴史や道徳や性教育などあらゆる方向から、大人も子どもも学んでいくための支援の方法を、考えていかなければならないと感じた。K子

鳥取県青少年問題協議会委員の就任について

芳村 恵子

この度、井上廉女さんの後任として、上記委員の就任をお受けすることになりました。

早速12月10日委員会がありました。

平井県知事を会長とした、行政機関委員9名、学識経験者委員16名による委員です。当日は関係課よりの出席もあり、私としては少々場違いな感がありました。

日頃ほとんど目にしない規則や条例の文面に戸惑いながら、聞いていました。

主な協議事項は鳥取県青少年健全育成条例の一部改正についてと、薬物乱用の現状と鳥取県が行なっている対策でした。有害図書や、脱法ハーブや覚せい剤に関する事など、多くの知識を得ました。丁度、アドバイザー研修会で山本会長や清水氏よりお話を聞かせて頂いた後だったので、とても助かりました。

青少年育成鳥取県民会議代表として、アドバイザーの松原厚子さんもいらっしやいました。堂々と意見を述べられていました。

私もしっかりと資料を読み、委員としての最低限の知識を習得しなければと思いました。今後とも、ご指導宜しくお願いいたします。



編集後記

今年の紅葉は例年になくどこも見事でした。その後一気にすっかり冬景色となりました。

通信も7月以来で、発行が遅れ申し訳ありませんでした。

これからクリスマス・お正月と楽しいことが続きます。どうか元気で楽しんでください。

次号は3月2日の研修会での感想を載せたいと思います。また、皆様の日頃の想いも寄せていただければと思います。宜しくお願いいたします。

oine.oine.oinechan@fork.ocn.ne.jp
(wordで入れてください)